

令和4年度 食の安全に関するアンケート調査結果

調査方法

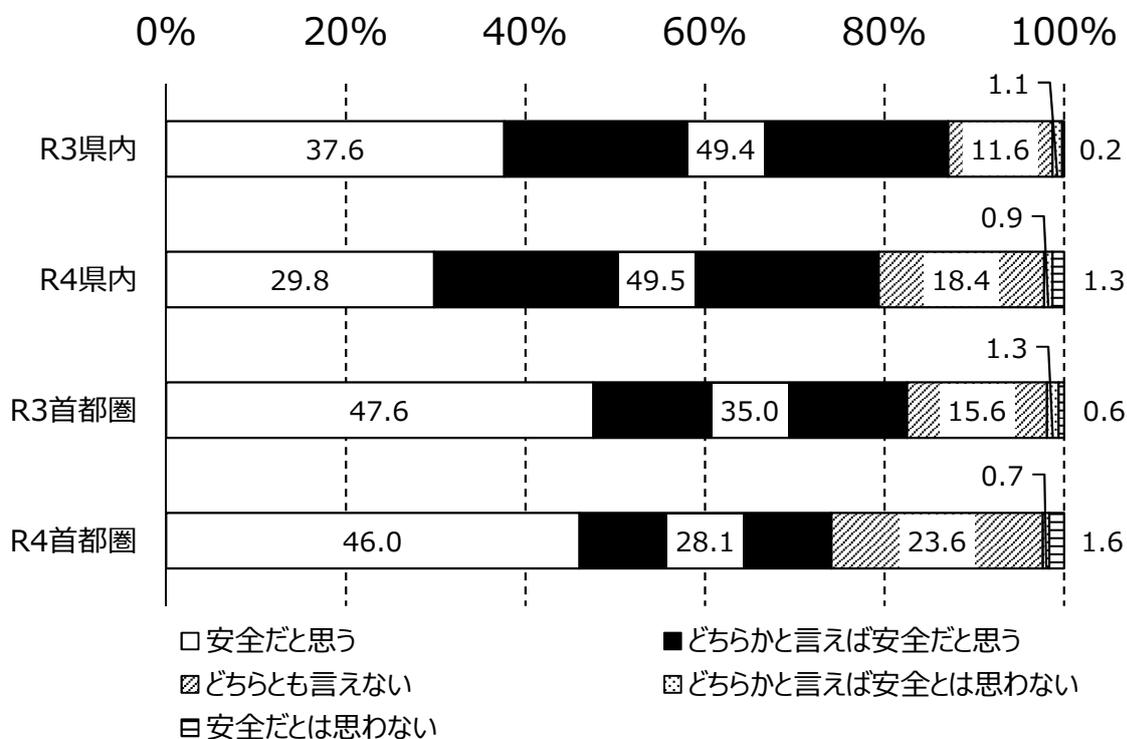
	県内	首都圏
調査時期	令和4年8月31～9月5日	
調査方法	インターネットによる調査 (依頼先：(株)マクロミル)	
調査対象者	新潟県内に在住する 20～60代の男女	東京都、千葉県、埼玉県、 神奈川県内に在住する 20～60代の男女
回答者数	543人／543人 (回答率100%)	552人／552人 (回答率100%)

調査対象者の構成

	県内		首都圏	
	男性	女性	男性	女性
20代	39人	36人	47人	45人
30代	51人	49人	57人	55人
40代	58人	57人	67人	66人
50代	56人	56人	51人	50人
60代	70人	71人	54人	60人

問1 あなたは新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、どのように感じていますか。(ひとつだけ)

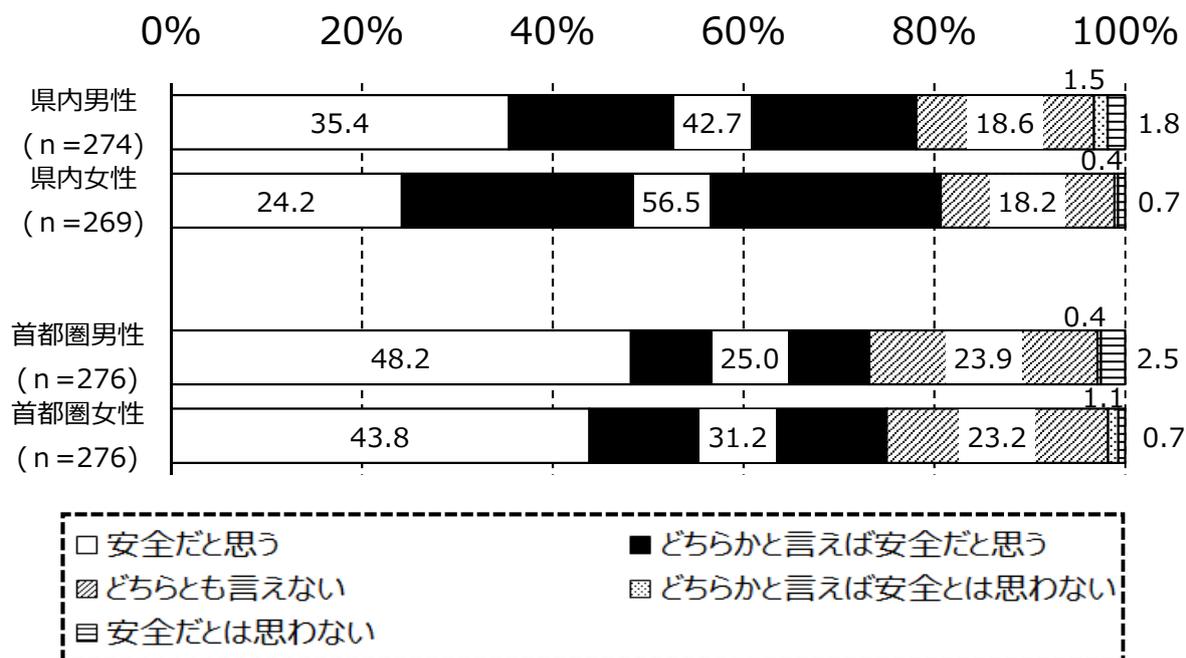
	県内						首都圏							
	R3年度		R4年度		79.4	R3年度		R4年度		82.6	R3年度		R4年度	
	件数	%	件数	%		件数	%	件数	%		件数	%		
1 安全だと思う	197	37.6	162	29.8	87.0	257	47.6	189	35.0	74.1	254	46.0	155	28.1
2 どちらかと言えば安全だと思う	259	49.4	269	49.5		84	15.6	130	23.6					
3 どちらとも言えない	61	11.6	100	18.4	7	1.3	4	0.7						
4 どちらかと言えば安全とは思わない	6	1.1	5	0.9	2.2	3	0.6	9	1.6	2.4	1	0.2	7	1.3
5 安全だとは思わない	1	0.2	7	1.3		3	0.6	9	1.6					
回答者数	524		543			540		552						



令和3年度からの変動幅が比較的大きかった部分として、県内については「安全だと思う」の割合が7.8ポイント減少し、「どちらとも言えない」の割合が6.8ポイント増加した。

首都圏については、「どちらかと言えば安全だと思う」の割合が6.9ポイント減少し、「どちらとも言えない」の割合が8ポイント増加した。

【男女別(R4年度)】



「安全だと思う」の占める割合は、県内、首都圏とも男性の方が多かった。

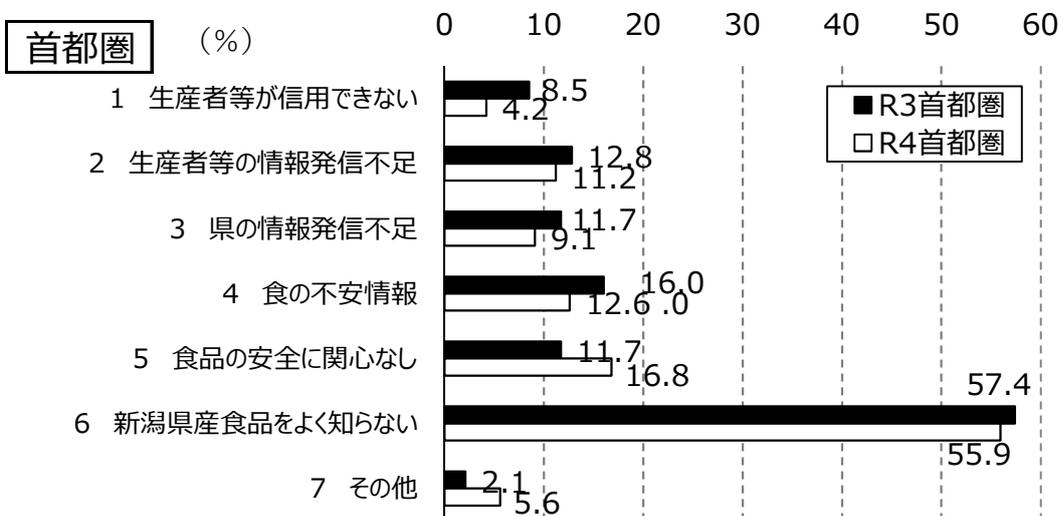
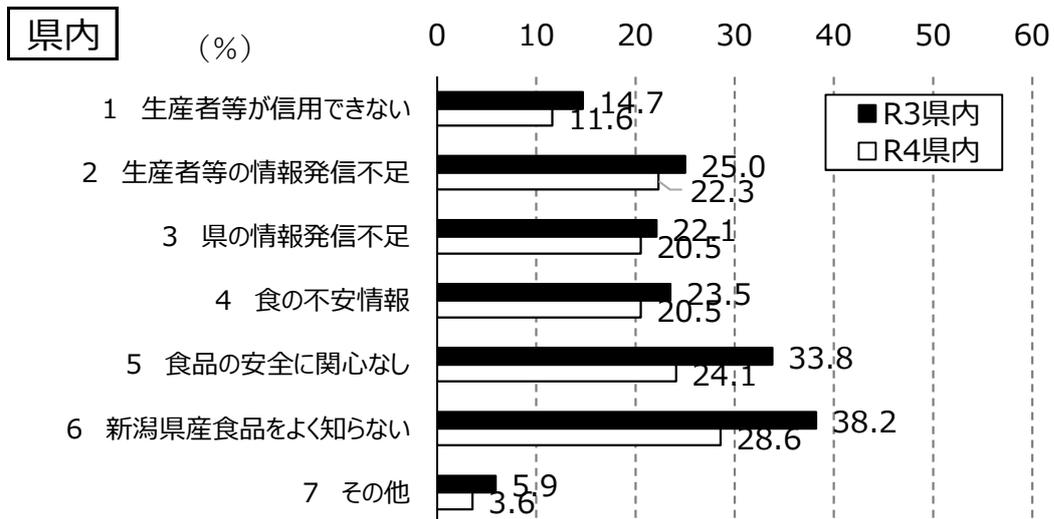
「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合は、県内、首都圏とも女性の方が多かった。

「どちらとも言えない」の占める割合は、県内、首都圏とも男女で大きな差はみられなかった。

「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合で比べると、県内女性のみが80%を超え、県内男性、首都圏男性、首都圏女性は70%台であった。

問2 問1で「3 どちらとも言えない」「4 どちらかと言えば安全とは思わない」「5 安全とは思わない」と回答した理由で、あてはまるものはどれですか。(いくつでも)

	県内						首都圏					
	R3年度			R4年度			R3年度			R4年度		
	件数	%	順位									
1 生産者や製造業者が信用できないから	10	14.7	6	13	11.6	6	8	8.5	6	6	4.2	7
2 生産者や製造業者からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	17	25.0	3	25	22.3	3	12	12.8	3	16	11.2	4
3 県からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	15	22.1	5	23	20.5	4	11	11.7	4	13	9.1	5
4 食に関する不安な報道を耳にするから	16	23.5	4	23	20.5	4	15	16.0	2	18	12.6	3
5 食品の安全性について、普段あまり関心がないから	23	33.8	2	27	24.1	2	11	11.7	4	24	16.8	2
6 新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから	26	38.2	1	32	28.6	1	54	57.4	1	80	55.9	1
7 その他	4	5.9	7	4	3.6	7	2	2.1	7	8	5.6	6
回答者数	68			112			94			143		



「その他」回答内容

- ・信用できるものもそうでないものもあるから
- ・生産者でも肥料や農薬を使っているから
- ・それぞれの生産者による など

※「特になし」(4名)、「なんとなく」(2名)、「考えたことがない」(1名)など、明確な理由を持たない者も見られた。

県内、首都圏ともに、「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」が最も多かった(県内:28.6%、首都圏:55.9%)。

県内では、令和3年度と比較して全ての選択肢で回答割合が減少した。

首都圏では、「食品の安全性について、普段あまり関心がないから」(5.1ポイント増加)、「その他」(2.0ポイント増加)を除く全ての選択肢で回答割合が減少した。

「食品の安全性について、普段あまり関心がないから」の占める割合は、首都圏より県内が高く、令和3年度と同様の傾向であった。

【男女別(R4年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	生産者等が信用できない	11.7%	11.5%	5.4%	2.9%
2	生産者等の情報発信不足	15.0%	30.8%	10.8%	11.6%
3	県の情報発信不足	16.7%	25.0%	8.1%	10.1%
4	食の不安情報	20.0%	21.2%	24.3%	26.1%
5	食品の安全に関心なし	25.0%	23.1%	16.2%	17.4%
6	新潟県産食品をよく知らない	28.3%	28.8%	58.1%	53.6%
7	その他	1.7%	5.8%	4.1%	7.2%

県内では、男性よりも女性の方が「生産者等の情報発信不足」、「県の情報発信不足」を選択した割合がそれぞれ15.8ポイント、8.7ポイント高かった。

「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」を選択した割合は、県内では男女の差が小さかったが、首都圏では女性より男性の方が4.5ポイント高かった。

【年代別(R4 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	4.8%	0.0%	20.0%	15.8%	13.8%
2	生産者等の情報発信不足	14.3%	5.6%	32.0%	10.5%	37.9%
3	県の情報発信不足	14.3%	0.0%	32.0%	10.5%	34.5%
4	食の不安情報	23.8%	44.4%	20.0%	10.5%	10.3%
5	食品の安全に関心なし	19.0%	27.8%	24.0%	31.6%	20.7%
6	新潟県産食品をよく知らない	33.3%	27.8%	16.0%	31.6%	34.5%
7	その他	9.5%	5.6%	0.0%	5.3%	0.0%

〈首都圏〉

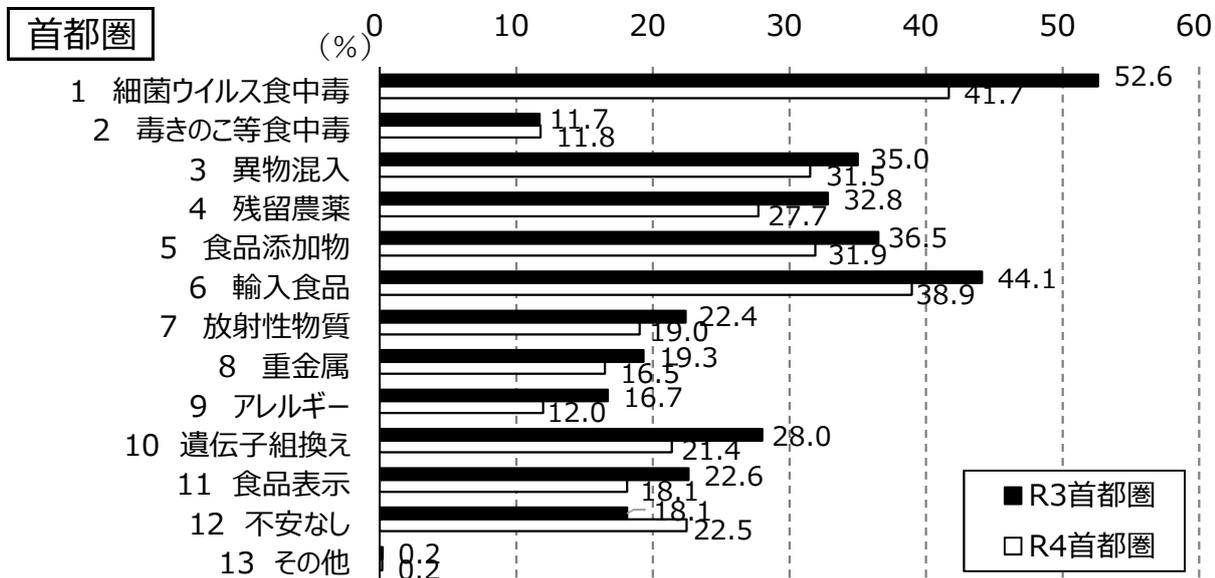
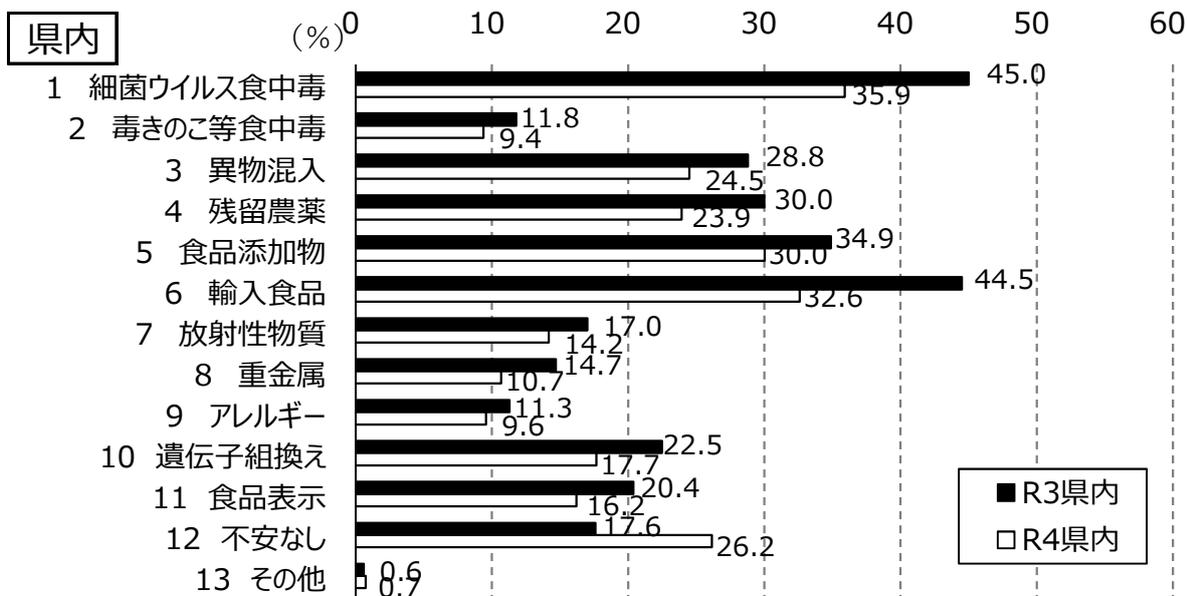
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	0.0%	4.0%	7.3%	0.0%	10.0%
2	生産者等の情報発信不足	12.5%	4.0%	7.3%	12.0%	25.0%
3	県の情報発信不足	6.3%	12.0%	4.9%	4.0%	25.0%
4	食の不安情報	6.3%	8.0%	4.9%	24.0%	30.0%
5	食品の安全に関心なし	18.8%	12.0%	19.5%	20.0%	10.0%
6	新潟県産食品をよく知らない	59.4%	60.0%	56.1%	56.0%	45.0%
7	その他	3.1%	0.0%	9.8%	4.0%	10.0%

県内では、年代によって最も多く選択された理由にばらつきがあったが、全ての年代で「生産者等が信用できない」と回答した割合は比較的低かった。

首都圏では、「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」が、すべての年代で最も多かった。

問3 あなたが、普段の食生活の中で、食の安全に関して不安を感じていることは何ですか。(いくつでも)

	県内						首都圏					
	R3年度			R4年度			R3年度			R4年度		
	件数	%	順位									
1 細菌やウイルスによる食中毒	236	45.0	1	195	35.9	1	284	52.6	1	230	41.7	1
2 毒きのこや有毒植物による食中毒	62	11.8	11	51	9.4	12	63	11.7	12	65	11.8	12
3 食品への異物混入	151	28.8	5	133	24.5	5	189	35.0	4	174	31.5	4
4 農薬の残留	157	30.0	4	130	23.9	6	177	32.8	5	153	27.7	5
5 食品添加物の使用	183	34.9	3	163	30.0	3	197	36.5	3	176	31.9	3
6 輸入食品の安全性	233	44.5	2	177	32.6	2	238	44.1	2	215	38.9	2
7 放射性物質による汚染	89	17.0	9	77	14.2	9	121	22.4	8	105	19.0	8
8 水銀やカドミウムなど重金属による汚染	77	14.7	10	58	10.7	10	104	19.3	9	91	16.5	10
9 食物アレルギー	59	11.3	12	52	9.6	11	90	16.7	11	66	12.0	11
10 遺伝子組換え食品の使用	118	22.5	6	96	17.7	7	151	28.0	6	118	21.4	7
11 食品の表示や宣伝に対する信頼性	107	20.4	7	88	16.2	8	122	22.6	7	100	18.1	9
12 普段の食生活で特に不安を感じていない	92	17.6	8	142	26.2	4	98	18.1	10	124	22.5	6
13 その他	3	0.6	13	4	0.7	13	1	0.2	13	1	0.2	13
回答者数	524			543			540			552		



「細菌やウイルスによる食中毒」、「輸入食品の安全性」、「食品添加物の使用」及び「食品への異物混入」が上位を占めており、この傾向は前年と同様であった。

令和3年度と比較すると、令和4年度は県内、首都圏ともに各不安要素を選択した割合は、いずれも減少または横ばいであったのに対して、「普段の食生活で特に不安に感じていない」と回答した割合は増加し、県内、首都圏ともにおおよそ4人に1人が選択した（県内は8.6ポイントの増加、首都圏は4.4ポイントの増加）。

【男女別(R4年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	細菌ウイルス食中毒	24.1%	48.0%	34.4%	48.9%
2	毒きのこ等食中毒	8.4%	10.4%	12.0%	11.6%
3	異物混入	22.3%	26.8%	30.1%	33.0%
4	残留農薬	21.2%	26.8%	24.6%	30.8%
5	食品添加物	19.3%	40.9%	23.2%	40.6%
6	輸入食品	24.5%	40.9%	32.2%	45.7%
7	放射性物質	11.7%	16.7%	14.9%	23.2%
8	重金属	11.7%	9.7%	14.9%	18.1%
9	アレルギー	7.3%	11.9%	10.9%	13.0%
10	遺伝子組換え	13.1%	22.3%	15.9%	26.8%
11	食品表示	11.7%	20.8%	14.5%	21.7%
12	不安なし	35.8%	16.4%	30.1%	14.9%
13	その他	1.1%	0.4%	0.0%	0.4%

県内、首都圏ともに、ほとんどの項目で男性より女性のほうが不安を感じている割合が高かった。

男女で10ポイント以上の差が生じた項目としては、県内及び首都圏とも「細菌やウイルスによる食中毒」、「食品添加物の使用」、「輸入食品の安全性」であり、これらに加えて首都圏では「遺伝子組換え食品」も該当した。

県内男性では、「普段の食生活で特に不安に感じていない」が最も多く、県内女性、首都圏男性、首都圏女性では、「細菌やウイルスによる食中毒」が最も多かった。

【年代別(R4 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	38.7%	42.0%	27.8%	33.9%	38.3%
2	毒きのこ等食中毒	9.3%	8.0%	8.7%	8.9%	11.3%
3	異物混入	32.0%	27.0%	21.7%	21.4%	23.4%
4	残留農薬	13.3%	19.0%	27.0%	26.8%	28.4%
5	食品添加物	16.0%	30.0%	30.4%	28.6%	38.3%
6	輸入食品	13.3%	24.0%	26.1%	39.3%	48.9%
7	放射性物質	5.3%	9.0%	16.5%	13.4%	21.3%
8	重金属	4.0%	8.0%	13.0%	14.3%	11.3%
9	アレルギー	18.7%	9.0%	10.4%	8.0%	5.7%
10	遺伝子組換え	2.7%	21.0%	12.2%	20.5%	25.5%
11	食品表示	2.7%	12.0%	14.8%	21.4%	23.4%
12	不安なし	30.7%	26.0%	31.3%	23.2%	22.0%
13	その他	0.0%	0.0%	1.7%	1.8%	0.0%

〈首都圏〉

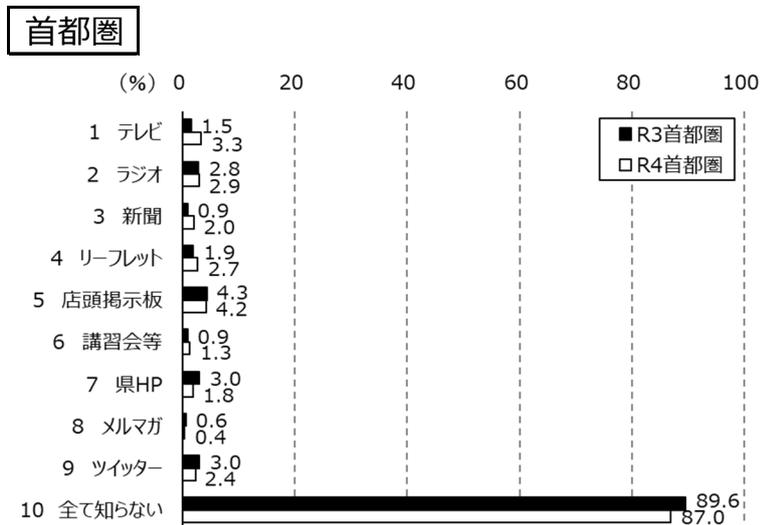
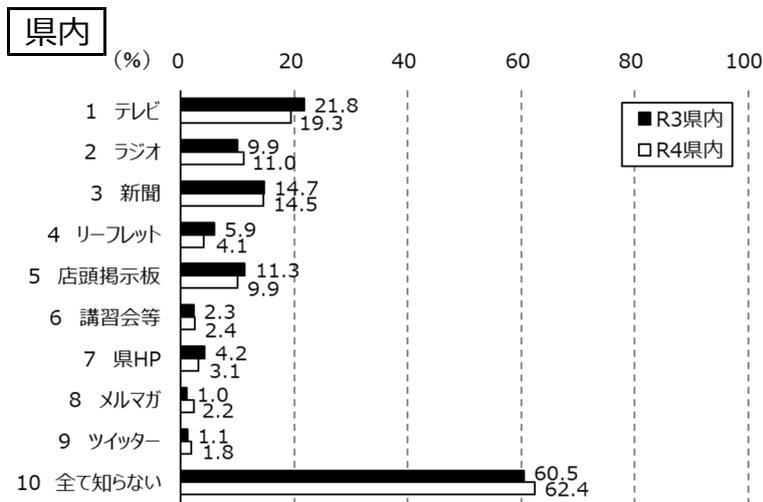
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	40.2%	37.5%	42.9%	46.5%	41.2%
2	毒きのこ等食中毒	15.2%	13.4%	9.0%	9.9%	12.3%
3	異物混入	35.9%	30.4%	25.6%	37.6%	30.7%
4	残留農薬	16.3%	22.3%	27.1%	30.7%	40.4%
5	食品添加物	18.5%	28.6%	28.6%	38.6%	43.9%
6	輸入食品	19.6%	31.3%	33.1%	54.5%	55.3%
7	放射性物質	13.0%	14.3%	21.1%	23.8%	21.9%
8	重金属	7.6%	13.4%	18.0%	20.8%	21.1%
9	アレルギー	18.5%	14.3%	10.5%	9.9%	7.9%
10	遺伝子組換え	8.7%	17.0%	21.8%	26.7%	30.7%
11	食品表示	7.6%	12.5%	17.3%	21.8%	29.8%
12	不安なし	25.0%	27.7%	23.3%	14.9%	21.1%
13	その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%

県内ではNo. 4、6、7、11の項目、首都圏ではNo. 4、5、6、8、10、11の項目については年代が上がるにつれて不安を感じる割合がおおむね高くなる傾向が見られた。

一方、県内、首都圏ともに、No. 9「食物アレルギー」に不安を感じる割合は、若い年代のほうが比較的高かった。

問4 新潟県では、次の方法で食の安全に関する情報を発信していますが、あなたが見聞きしたり、参加したことがあるものはありますか。(いくつかでも)

		県内						首都圏					
		R3年度			R4年度			R3年度			R4年度		
		件数	%	順位									
1	県のテレビ広報番組 「ほっとホット新潟」、「週刊 県政ナビ」	114	21.8	2	105	19.3	2	8	1.5	7	18	3.3	3
2	ラジオ放送やラジオCM	52	9.9	5	60	11.0	4	15	2.8	5	16	2.9	4
3	新潟日報「県からのお知らせ」欄への掲載	77	14.7	3	79	14.5	3	5	0.9	8	11	2.0	7
4	新潟県が作成したリーフレット類（「防ごうノロウイルス食中毒」、「きのこによる食中毒に注意！」など）	31	5.9	6	22	4.1	6	10	1.9	6	15	2.7	5
5	スーパーマーケットなど食料品店での店頭掲示版「にいがた食の安全インフォメーション」	59	11.3	4	54	9.9	5	23	4.3	2	23	4.2	2
6	県内保健所が開催するイベントや講習会（手洗い講座やきのこ講習会など）	12	2.3	8	13	2.4	8	5	0.9	8	7	1.3	9
7	県ホームページ「にいがた食の安全インフォメーション」	22	4.2	7	17	3.1	7	16	3.0	3	10	1.8	8
8	メールマガジン「いただきます！にいがた食の安全・安心通信」	5	1.0	10	12	2.2	9	3	0.6	10	2	0.4	10
9	Twitter（ツイッター）「にいがた食の安全」	6	1.1	9	10	1.8	10	16	3.0	3	13	2.4	6
10	いずれも知らない	317	60.5	1	339	62.4	1	484	89.6	1	480	87.0	1
	回答者数	524			543			540			552		

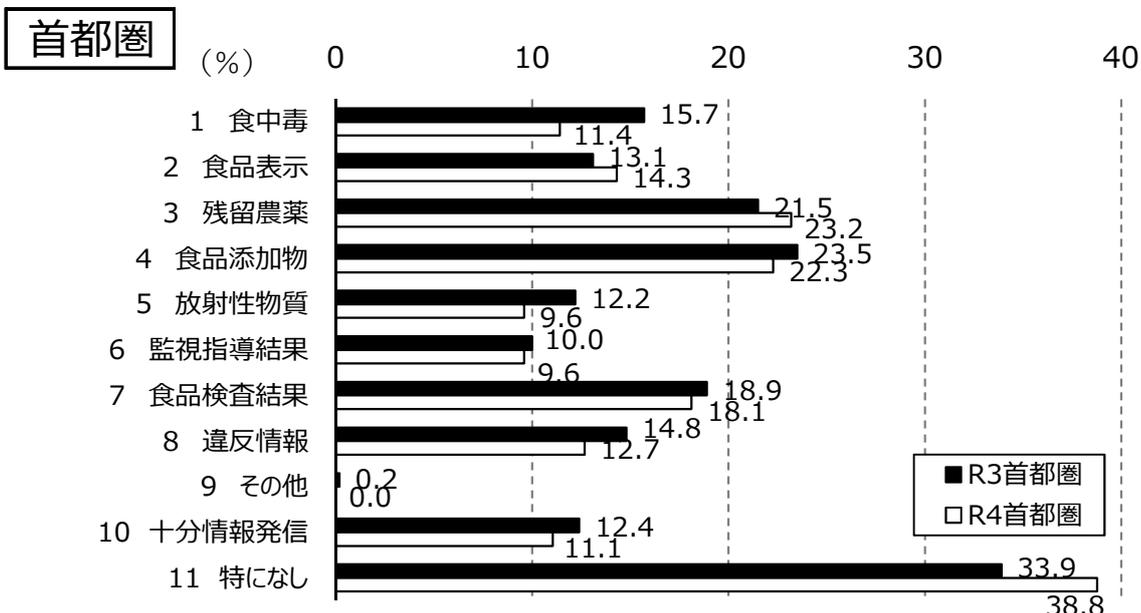
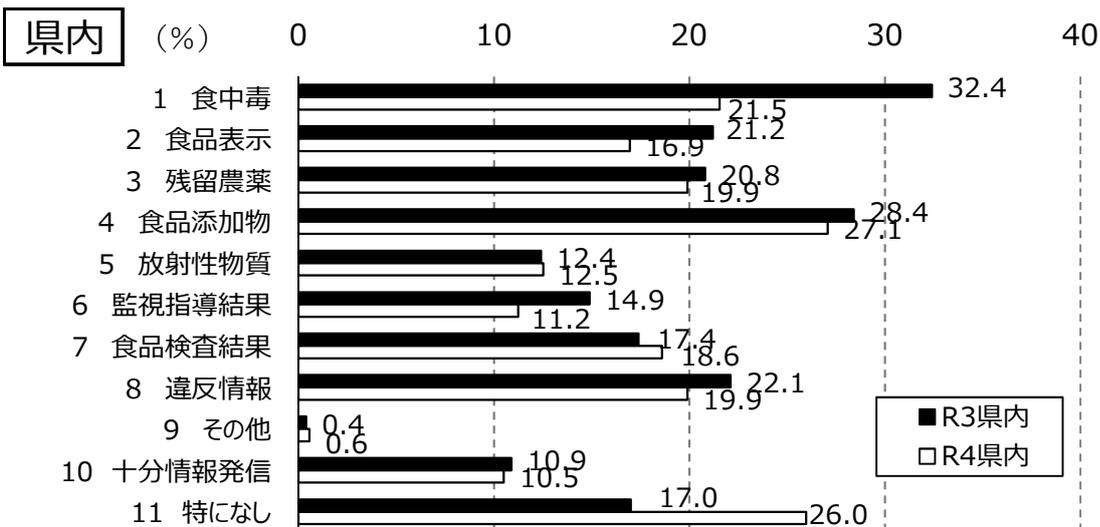


「いずれも知らない」が県内で約6割、首都圏で約9割を占め、前年同様、県が発信する食の安全に関する情報が、県民や首都圏住民にあまり伝わっていないことがうかがえた。

県内で最も認知されていたのは「県のテレビ広報番組」で、それ以外の「新潟日報」、「店頭掲示版」、「ラジオ」についても前年度と同様、上位を占めた。

問5 新潟県では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが新潟県から特に発信してほしい内容はどれですか。（3つまで）

	県内						首都圏					
	R3年度			R4年度			R3年度			R4年度		
	件数	%	順位									
1 食中毒の種類や予防法	170	32.4	1	117	21.5	3	85	15.7	5	63	11.4	7
2 食品表示の見方	111	21.2	4	92	16.9	7	71	13.1	7	79	14.3	5
3 残留農薬の安全性	109	20.8	5	108	19.9	4	116	21.5	3	128	23.2	2
4 食品添加物の安全性	149	28.4	2	147	27.1	1	127	23.5	2	123	22.3	3
5 放射性物質に関する知識	65	12.4	9	68	12.5	8	66	12.2	9	53	9.6	9
6 事業者に対する監視指導の実施状況	78	14.9	8	61	11.2	9	54	10.0	10	53	9.6	9
7 流通食品の残留農薬などの安全性に関する検査結果	91	17.4	6	101	18.6	6	102	18.9	4	100	18.1	4
8 食中毒事件や法の基準に合わない(違反)食品の発生情報	116	22.1	3	108	19.9	4	80	14.8	6	70	12.7	6
9 その他	2	0.4	11	3	0.6	11	1	0.2	11	0	0.0	11
10 県が現状で行っている情報発信で十分だと思う	57	10.9	10	57	10.5	10	67	12.4	8	61	11.1	8
11 特になし	89	17.0	7	141	26.0	2	183	33.9	1	214	38.8	1
回答者数	524			543			540			552		



「その他」回答内容

- ・ コメの残留農薬情報
- ・ 店舗で購入時古いものから購入するように呼びかける など

県内では「食品添加物の安全性」、「食中毒の予防法」、「残留農薬の安全性」、「食中毒事件や法の基準に合わない(違反)食品の発生情報」が上位を占めた一方で、「特になし」の回答が前年度7位から2位に上昇した。

首都圏では「残留農薬の安全性」、「食品添加物の安全性」が上位を占めた一方で、「特になし」の回答が、前年同様最も多かった。

令和3年度と比較すると、令和4年度は県内、首都圏ともに各情報を選択した割合は、いずれも減少または横ばいであったのに対して、「特になし」と回答した割合は増加し、県内では、おおよそ4人に1人が、首都圏ではおおよそ3人に1人が選択した（県内は9.0ポイントの増加、首都圏は4.9ポイントの増加）。

【男女別(R4年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	食中毒	20.8%	22.3%	10.5%	12.3%
2	食品表示	16.8%	17.1%	15.6%	13.0%
3	残留農薬	18.6%	21.2%	20.3%	26.1%
4	食品添加物	18.2%	36.1%	19.6%	25.0%
5	放射性物質	9.5%	15.6%	6.5%	12.7%
6	監視指導結果	11.3%	11.2%	10.1%	9.1%
7	食品検査結果	15.3%	21.9%	15.9%	20.3%
8	違反情報	16.1%	23.8%	14.5%	10.9%
9	その他	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
10	十分情報発信	10.9%	10.0%	9.1%	13.0%
11	特になし	33.2%	18.6%	43.1%	34.4%

県内では多くの項目で、男性より女性のほうが発信を希望する割合が高かった。特に男女で10ポイント以上の差が生じた項目は、「食品添加物の安全性」（17.9ポイント差）であった。一方で、「特になし」については、男性の方が14.6ポイント高かった。

首都圏では、県内ほど大きな男女差は見られなかった。

【年代別(R4年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	24.0%	25.0%	13.9%	21.4%	24.1%
2	食品表示	25.3%	20.0%	14.8%	13.4%	14.9%
3	残留農薬	9.3%	21.0%	17.4%	21.4%	25.5%
4	食品添加物	22.7%	24.0%	27.0%	24.1%	34.0%
5	放射性物質	6.7%	7.0%	11.3%	17.9%	16.3%
6	監視指導結果	9.3%	14.0%	9.6%	11.6%	11.3%
7	食品検査結果	9.3%	18.0%	16.5%	14.3%	29.1%
8	違反情報	16.0%	20.0%	16.5%	22.3%	22.7%
9	その他	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.4%
10	十分情報発信	10.7%	8.0%	12.2%	13.4%	8.5%
11	特になし	29.3%	26.0%	31.3%	25.9%	19.9%

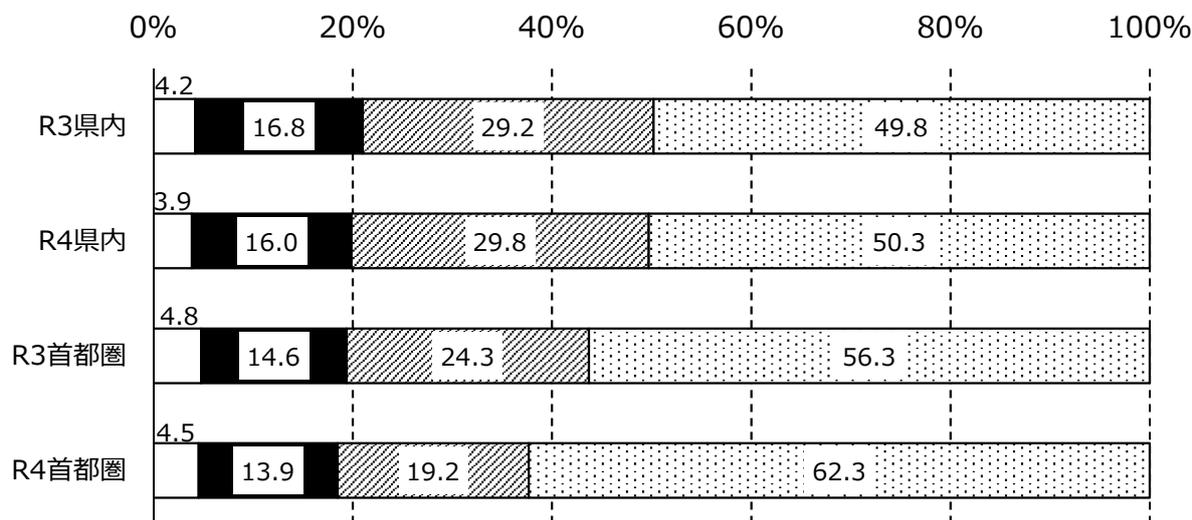
〈首都圏〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	14.1%	14.3%	11.3%	14.9%	3.5%
2	食品表示	16.3%	17.0%	10.5%	15.8%	13.2%
3	残留農薬	20.7%	24.1%	18.8%	19.8%	32.5%
4	食品添加物	17.4%	27.7%	18.8%	21.8%	25.4%
5	放射性物質	3.3%	12.5%	9.8%	12.9%	8.8%
6	監視指導結果	9.8%	6.3%	12.0%	5.9%	13.2%
7	食品検査結果	9.8%	16.1%	15.8%	14.9%	32.5%
8	違反情報	15.2%	10.7%	12.0%	9.9%	15.8%
9	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10	十分情報発信	16.3%	8.0%	12.0%	12.9%	7.0%
11	特になし	37.0%	40.2%	41.4%	37.6%	36.8%

県内では「残留農薬の安全性」について、年代が上がるにつれて発信を希望する割合が高くなる傾向が見られた。

問6 新潟県では、食品の製造業者、飲食業者、販売業者などの食品関連事業者に対し、HACCP（ハサップ）による衛生管理の普及を推進するため、HACCPに対する消費者の認知度向上に取り組んでいます。あなたは、食品の衛生管理手法であるHACCPを知っていますか。（ひとつだけ）

	県内				首都圏			
	R3年度		R4年度		R3年度		R4年度	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1 よく知っている(HACCPは内容も含めてよく知っている)	22	4.2	21	3.9	26	4.8	25	4.5
2 少し知っている(HACCPが食品に関係していることは知っている)	88	16.8	87	16.0	79	14.6	77	13.9
3 ほとんど知らない(HACCPという言葉は見聞きしたことがある)	153	29.2	162	29.8	131	24.3	106	19.2
4 全く知らない(HACCPという言葉も内容も知らなかった)	261	49.8	273	50.3	304	56.3	344	62.3
回答者数	524		543		540		552	



よく知っている（HACCPは内容も含めてよく知っている）
 少し知っている（HACCPが食品に関係していることは知っている）
 ほとんど知らない（HACCPという言葉は見聞きしたことがある）
 全く知らない（HACCPという言葉も内容も知らなかった）

HACCPについて「よく知っている」又は「少し知っている」の占める割合は、県内、首都圏ともに2割程度（県内：19.9%、首都圏：18.5%）にとどまり、県内、首都圏ともに半数以上が「全く知らない」と回答した。（令和3年度と比較すると、「全く知らない」と回答した割合が県内では0.5ポイントの微増、首都圏では6.0ポイントの増加）

【男女別(R4年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	よく知っている (HACCPは内容も含めてよく知っている)	5.5%	2.2%	7.6%	1.4%
2	少し知っている (HACCPが食品に関係していることは知っている)	17.5%	14.5%	14.5%	13.4%
3	ほとんど知らない (HACCPという言葉は見聞きしたことがある)	29.2%	30.5%	18.5%	19.9%
4	全く知らない (HACCPという言葉も内容も知らなかった)	47.8%	52.8%	59.4%	65.2%

HACCPについて「よく知っている」又は「少し知っている」の占める割合は、県内、首都圏ともに女性より男性のほうが高かった。

一方で、「全く知らない」の割合は、県内、首都圏とも女性の方が高かった。

【年代別(R4年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	よく知っている (HACCPは内容も含めてよく知っている)	9.3%	4.0%	3.5%	2.7%	2.1%
2	少し知っている (HACCPが食品に関係していることは知っている)	14.7%	20.0%	10.4%	13.4%	20.6%
3	ほとんど知らない (HACCPという言葉は見聞きしたことがある)	26.7%	26.0%	33.9%	32.1%	29.1%
4	全く知らない (HACCPという言葉も内容も知らなかった)	49.3%	50.0%	52.2%	51.8%	48.2%

〈首都圏〉

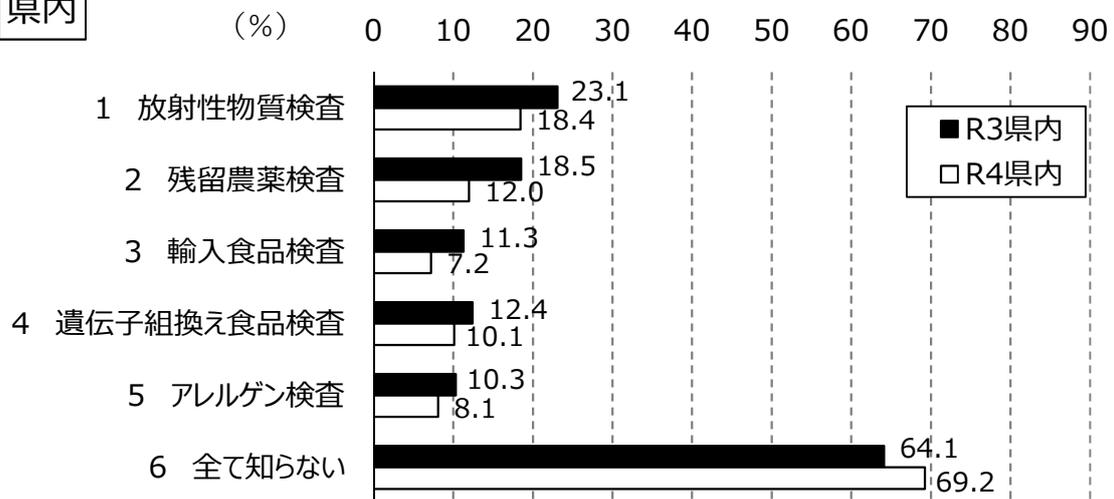
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	よく知っている (HACCPは内容も含めてよく知っている)	5.4%	8.0%	4.5%	2.0%	2.6%
2	少し知っている (HACCPが食品に関係していることは知っている)	18.5%	15.2%	11.3%	13.9%	12.3%
3	ほとんど知らない (HACCPという言葉は見聞きしたことがある)	22.8%	17.0%	20.3%	20.8%	15.8%
4	全く知らない (HACCPという言葉も内容も知らなかった)	53.3%	59.8%	63.9%	63.4%	69.3%

HACCPについて「よく知っている」と回答した割合は、いずれの年代でも1割未満と低かったが、その中でも年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向が見られた。

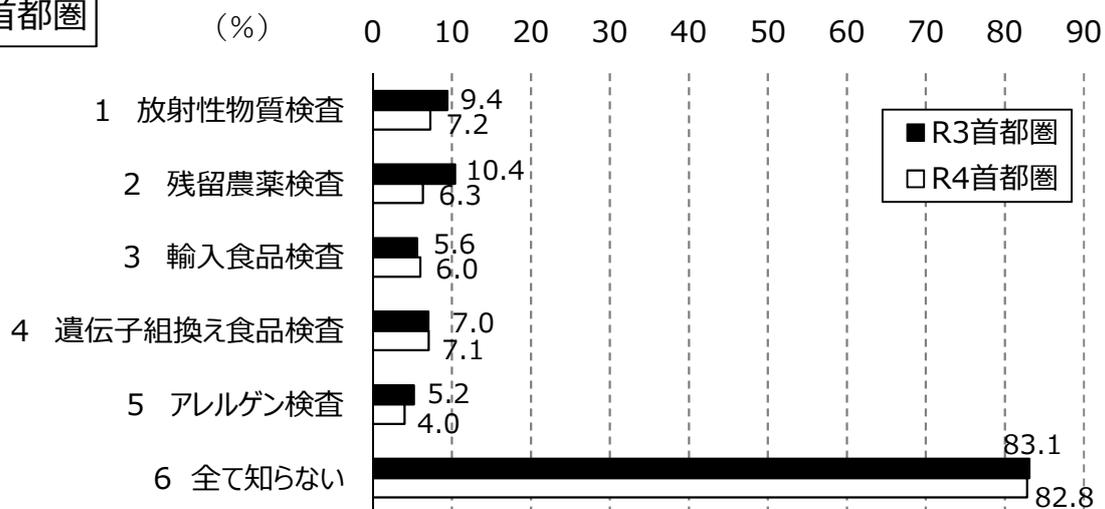
問7 新潟県では、様々な食品の検査を実施し、結果を公表しています。あなたは、新潟県が以下の食品検査を行っていることを知っていましたか。(いくつでも)

	県内						首都圏					
	R3年度			R4年度			R3年度			R4年度		
	件数	%	順位									
1 食品の放射性物質検査	121	23.1	2	100	18.4	2	51	9.4	3	40	7.2	2
2 農産物の残留農薬検査	97	18.5	3	65	12.0	3	56	10.4	2	35	6.3	4
3 輸入食品の食品添加物や細菌の検査	59	11.3	5	39	7.2	6	30	5.6	5	33	6.0	5
4 遺伝子組換え食品の検査	65	12.4	4	55	10.1	4	38	7.0	4	39	7.1	3
5 アレルゲンを含む食品の検査	54	10.3	6	44	8.1	5	28	5.2	6	22	4.0	6
6 どれも知らない	336	64.1	1	336	69.2	1	449	83.1	1	457	82.8	1
回答者数	524			543			540			552		

県内



首都圏



県内、首都圏ともに各検査項目の認知度は低下又は横ばいであり、「どれも知らない」が県内で約7割、首都圏で約8割を占め、令和3年度とほぼ同様の傾向であった。

【男女別(R4 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	放射性物質検査	17.5%	19.3%	10.1%	4.3%
2	残留農薬検査	10.9%	13.0%	8.0%	4.7%
3	輸入食品検査	6.6%	7.8%	8.3%	3.6%
4	遺伝子組換え食品検査	7.3%	13.0%	8.7%	5.4%
5	アレルギー検査	7.7%	8.6%	4.7%	3.3%
6	全て知らない	71.2%	67.3%	77.9%	87.7%

【年代別(R4 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	14.7%	14.0%	12.2%	13.4%	32.6%
2	残留農薬検査	9.3%	6.0%	7.8%	12.5%	20.6%
3	輸入食品検査	5.3%	8.0%	3.5%	5.4%	12.1%
4	遺伝子組換え食品検査	6.7%	9.0%	7.8%	11.6%	13.5%
5	アレルギー検査	12.0%	11.0%	8.7%	3.6%	7.1%
6	全て知らない	70.7%	70.0%	73.9%	73.2%	61.0%

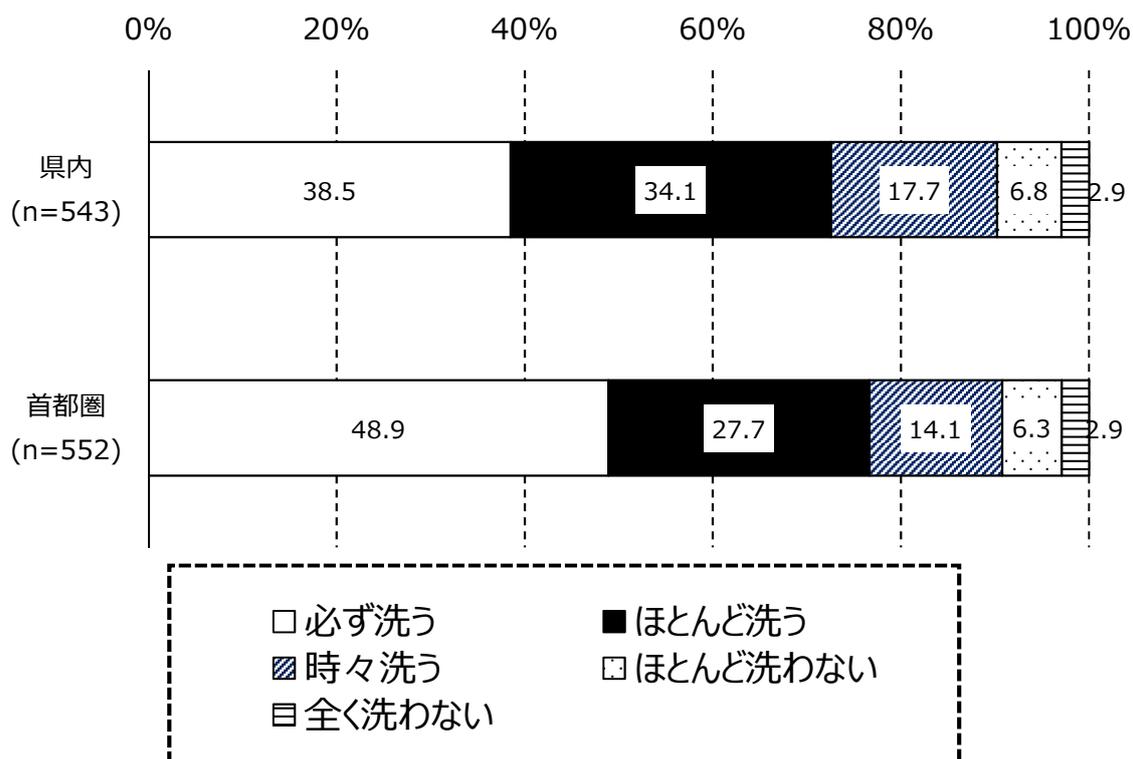
〈首都圏〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	8.7%	8.9%	5.3%	5.9%	7.9%
2	残留農薬検査	7.6%	7.1%	3.8%	5.9%	7.9%
3	輸入食品検査	9.8%	6.3%	4.5%	5.0%	5.3%
4	遺伝子組換え食品検査	8.7%	4.5%	9.0%	5.0%	7.9%
5	アレルギー検査	6.5%	5.4%	4.5%	3.0%	0.9%
6	全て知らない	78.3%	80.4%	83.5%	86.1%	85.1%

No. 5 アレルギー検査については、若い世代の方が比較的認知度が高い傾向が見られた。

問8 あなたは、食事前に手洗いをしますか。(ひとつだけ)

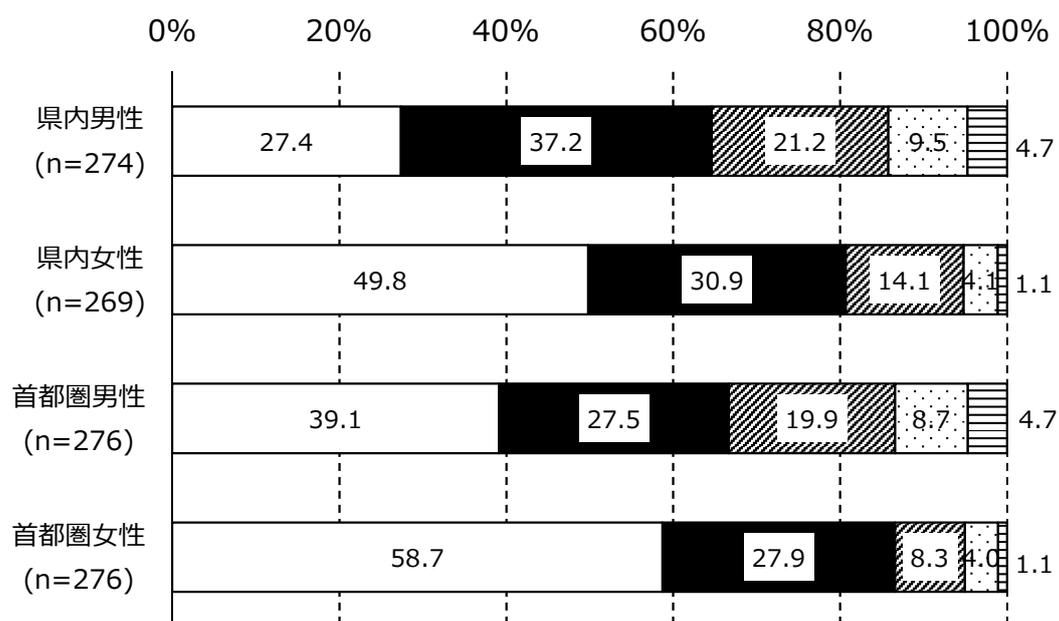
	県内			首都圏		
	件数	%	順位	件数	%	順位
1 必ず洗う	209	38.5	1	270	48.9	1
2 ほとんど洗う	185	34.1	2	153	27.7	2
3 時々洗う	96	17.7	3	78	14.1	3
4 ほとんど洗わない	37	6.8	4	35	6.3	4
5 全く洗わない	16	2.9	5	16	2.9	5
回答者数	543			552		



県内、首都圏ともに、「必ず手を洗う」と回答した人の割合が最も高く、「ほとんど洗う」と回答した人と合わせると、7割を超えた。

また、「必ず手を洗う」と回答した割合は、県内よりも首都圏の方が10.4ポイント高かった。

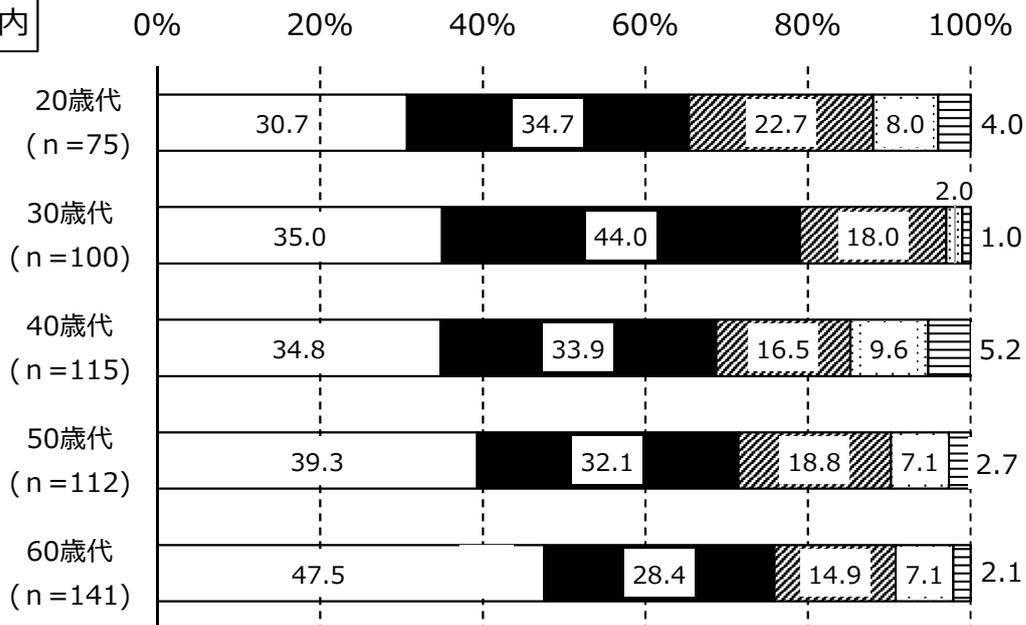
【男女別】



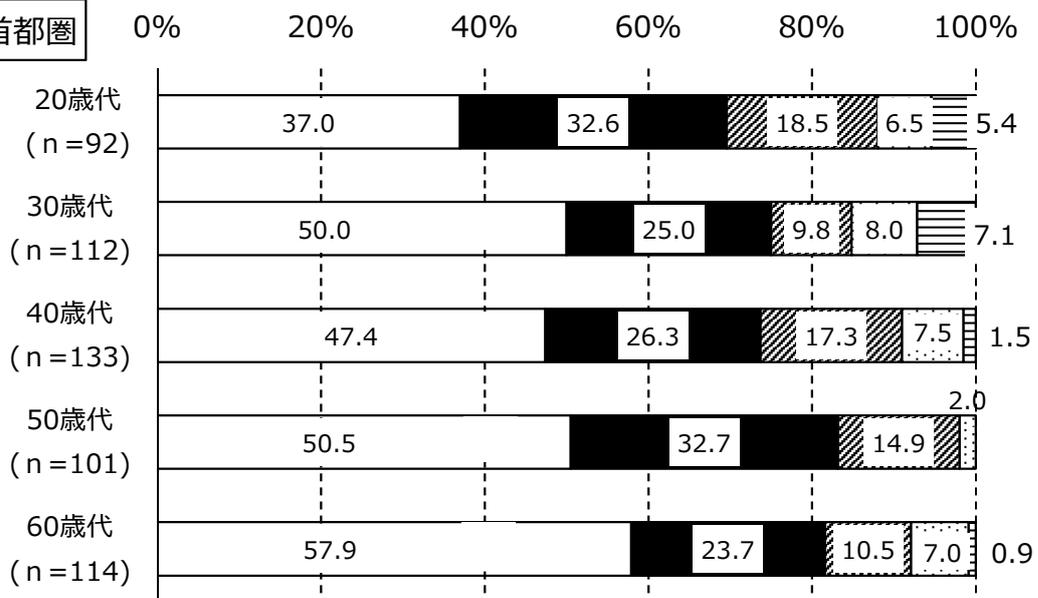
県内、首都圏ともに「必ず手を洗う」と回答した人の割合は、男性よりも女性の方が高かった（県内では22.4ポイント差、首都圏では19.6ポイント差）。

【年代別】

県内



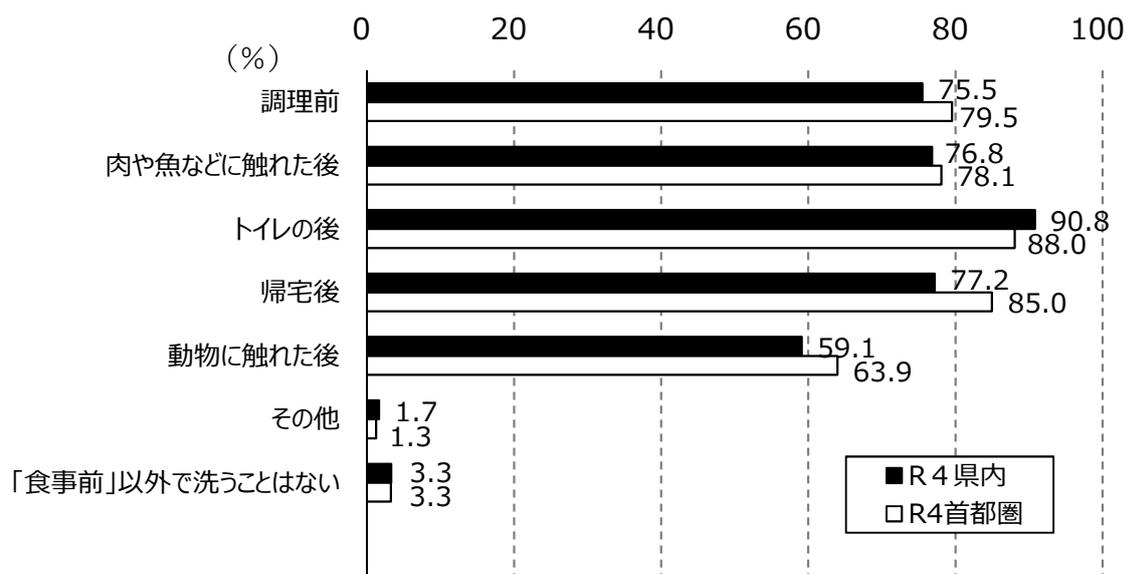
首都圏



県内、首都圏ともに、年代が上がるにつれて「必ず洗う」とした割合が高くなる傾向が見られた。

問9 あなたは、「食事の前」以外に、どのようなときに手を洗いますか。
(いくつでも)

	県内			首都圏		
	件数	%	順位	件数	%	順位
1 調理前	410	75.5	4	439	79.5	3
2 肉や魚などに触れた後	417	76.8	3	431	78.1	4
3 トイレの後	493	90.8	1	486	88.0	1
4 帰宅後	419	77.2	2	469	85.0	2
5 動物に触れた後	321	59.1	5	353	63.9	5
6 その他	9	1.7	7	7	1.3	7
7 「食事前」以外で洗うことはない	18	3.3	6	18	3.3	6
回答者数	543			552		



「その他」回答内容

- ・ゴミ出しの後
- ・工作中、仕事後
- ・掃除後
- ・壁でもカーテンでも、どこでも触ったあとは必ず など

県内では、「トイレの後」に手を洗うとした割合は9割を超えていた。
首都圏では、「トイレの後」、「帰宅後」に手を洗うとした割合は8割を超えていた。

【男女別】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	調理前	62.0%	89.2%	66.7%	92.4%
2	肉や魚などに触れた後	63.5%	90.3%	65.9%	90.2%
3	トイレの後	86.9%	94.8%	83.7%	92.4%
4	帰宅後	67.9%	86.6%	78.6%	91.3%
5	動物に触れた後	50.7%	67.7%	51.4%	76.4%
6	その他	1.5%	1.9%	0.7%	1.8%
7	「食事前」以外で洗うことはない	5.8%	0.7%	5.1%	1.4%

県内、首都圏ともに、男性よりも女性の方が各場面で手を洗う割合は高く、「調理前」、「肉や魚などに触れた後」では、男女で20ポイント以上の差が見られた。

【年代別】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	調理前	72.0%	73.0%	74.8%	75.9%	79.4%
2	肉や魚などに触れた後	68.0%	76.0%	73.0%	78.6%	83.7%
3	トイレの後	86.7%	89.0%	87.8%	92.0%	95.7%
4	帰宅後	72.0%	80.0%	73.9%	75.9%	81.6%
5	動物に触れた後	56.0%	58.0%	64.3%	56.3%	59.6%
6	その他	0.0%	1.0%	1.7%	2.7%	2.1%
7	「食事前」以外で洗うことはない	5.3%	5.0%	4.3%	2.7%	0.7%

〈首都圏〉

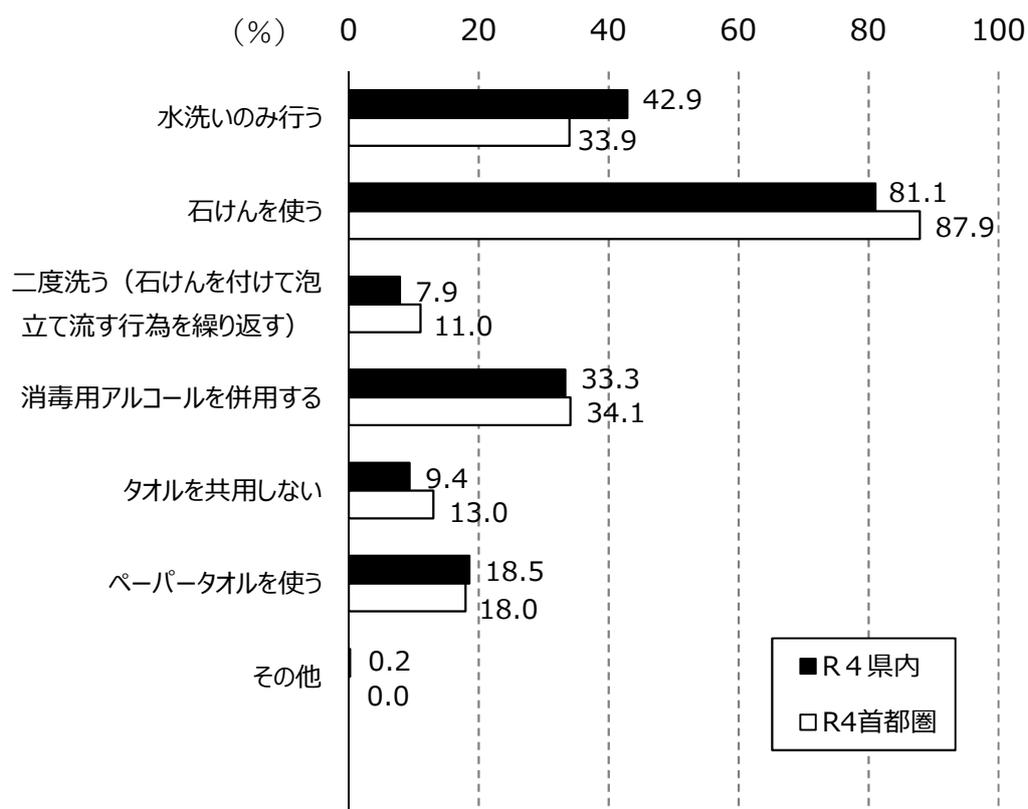
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	調理前	72.8%	78.6%	78.9%	84.2%	82.5%
2	肉や魚などに触れた後	69.6%	77.7%	76.7%	84.2%	81.6%
3	トイレの後	78.3%	85.7%	92.5%	92.1%	89.5%
4	帰宅後	78.3%	83.9%	88.7%	89.1%	83.3%
5	動物に触れた後	56.5%	64.3%	65.4%	64.4%	67.5%
6	その他	0.0%	0.9%	0.8%	3.0%	1.8%
7	「食事前」以外で洗うことはない	7.6%	5.4%	2.3%	0.0%	1.8%

県内、首都圏とも、すべての年代で「トイレの後」の手洗いの割合が最も高く、おおむね8割を超えていた。

また、年代が上がるにつれて各場面で手を洗う割合が高くなる傾向が見られた。

問 10 あなたが普段行う手洗いの方法として、当てはまることは何ですか。
(いくつでも)

	県内			首都圏		
	件数	%	順位	件数	%	順位
1 水洗いのみ行う	229	42.9	2	185	33.9	3
2 石けんを使う	433	81.1	1	479	87.9	1
3 二度洗う(石けんを付けて泡立て流す行為を繰り返す)	42	7.9	6	60	11.0	6
4 消毒用アルコールを併用する	178	33.3	3	186	34.1	2
5 タオルを共用しない	50	9.4	5	71	13.0	5
6 ペーパータオルを使う	99	18.5	4	98	18.0	4
7 その他	1	0.2	7	0	0.0	7
回答者数	543			552		



「その他」回答内容

- ・泡立つハンドソープ

県内、首都圏ともに「石けんを使う」を挙げた人が最も多く8割を超えていた。

また、「水洗いのみ行う」が県内で4割、首都圏で約3割いたことから、「石けんを使う」ことが多いものの状況によって「水洗いのみ行う」場合があることが分かった。

【男女別】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	水洗いのみ行う	44.2%	40.1%	34.4%	32.6%
2	石けんを使う	77.4%	82.2%	80.4%	93.1%
3	二度洗う（石けんを付けて泡立て流す行為を繰り返す）	6.6%	8.9%	10.5%	11.2%
4	消毒用アルコールを併用する	27.0%	38.7%	27.9%	39.5%
5	タオルを共用しない	7.3%	11.2%	10.9%	14.9%
6	ペーパータオルを使う	12.8%	23.8%	15.6%	19.9%
7	その他	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%

県内、首都圏とも、「石けんを使う」、「消毒用アルコールを併用する」については、男性より女性の方が10ポイント以上高かった。

【年代別】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	水洗いのみ行う	44.0%	36.0%	42.6%	47.3%	41.1%
2	石けんを使う	74.7%	81.0%	81.7%	77.7%	81.6%
3	二度洗う（石けんを付けて泡立て流す行為を繰り返す）	12.0%	12.0%	6.1%	4.5%	6.4%
4	消毒用アルコールを併用する	33.3%	42.0%	29.6%	27.7%	32.6%
5	タオルを共用しない	2.7%	10.0%	12.2%	6.3%	12.1%
6	ペーパータオルを使う	13.3%	24.0%	18.3%	14.3%	19.9%
7	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%

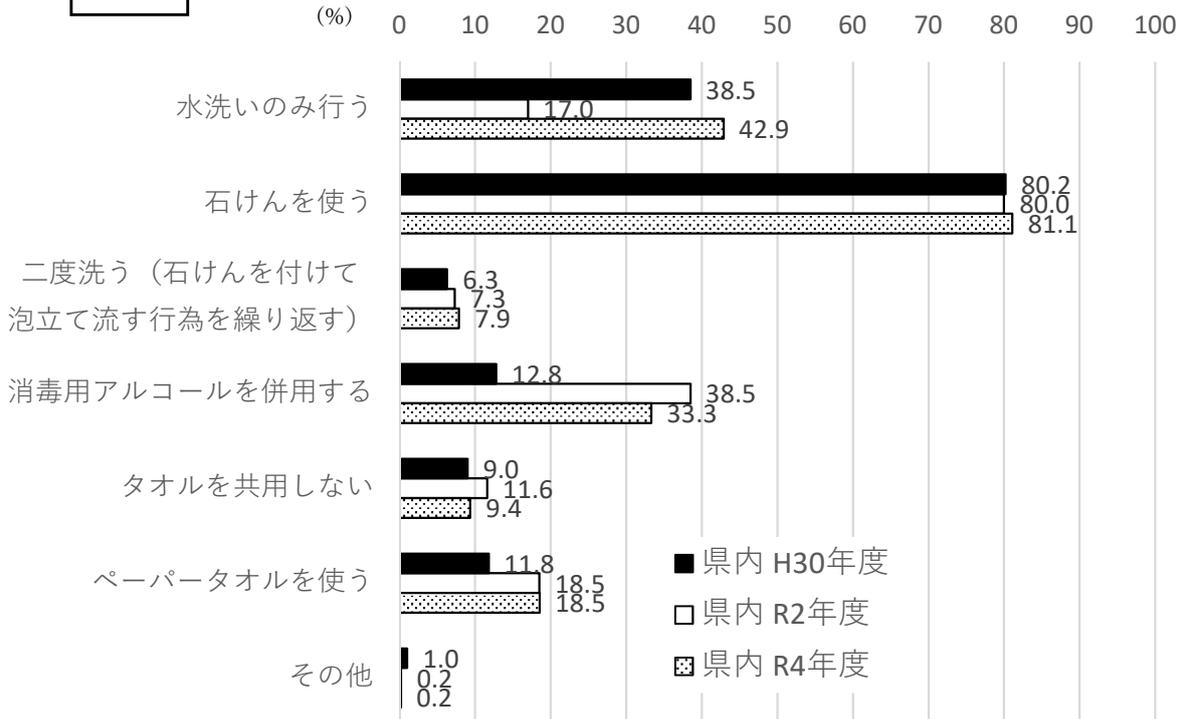
〈首都圏〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	水洗いのみ行う	28.3%	27.7%	35.3%	40.6%	35.1%
2	石けんを使う	87.0%	83.9%	85.7%	87.1%	90.4%
3	二度洗う（石けんを付けて泡立て流す行為を繰り返す）	6.5%	12.5%	15.0%	8.9%	9.6%
4	消毒用アルコールを併用する	27.2%	29.5%	39.1%	37.6%	33.3%
5	タオルを共用しない	8.7%	12.5%	11.3%	11.9%	19.3%
6	ペーパータオルを使う	17.4%	19.6%	18.0%	17.8%	15.8%
7	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

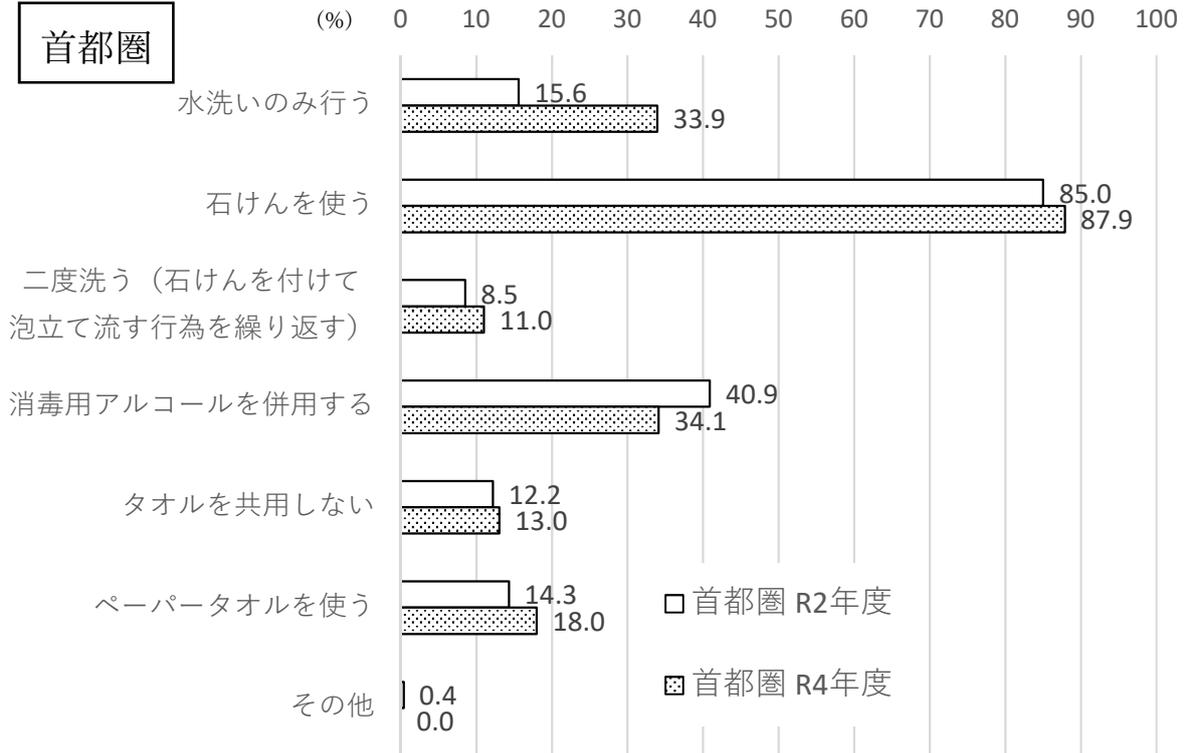
「石けんを使う」と回答した割合は、県内では各年代で7割以上、首都圏では各年代で8割以上であった。

なお、年代による一定の傾向はみられなかった。

県内



首都圏



県内については平成 30 年度及び令和 2 年度に、首都圏については令和 2 年度に同じ調査をしている。

「石けんを使う」割合は、県内、首都圏ともにいずれの年度も 8 割を超えていた。

「消毒用アルコールを併用する」割合は、県内では平成 30 年度から令和 2 年度にかけて大幅に増加（25.7 ポイント増加）し、令和 4 年度はおおむね横ばいであった。首都圏でも、令和 2 年度から 4 年度にかけてほぼ横ばいであった。

「水洗いのみ行う」の割合は、令和 2 年度に比べて令和 4 年度は県内、首都圏ともに増加した（県内で 25.9 ポイント、首都圏で 18.3 ポイント）。

